

令和5年度第1回 JCHO 松浦中央病院「地域協議会」(会議録)

○ 日 時 令和5年8月29日(火) 19:00~20:35

○ 場 所 JCHO 松浦中央病院 3階 会議室

【出席者】外部委員

堀江 徹 (行政:長崎県北保健所 所長) オンライン参加
岡 正文 (行政:松浦市健康ほけん課 課長)
宮崎 直人 (行政:松浦市長寿介護課 課長)
武部 勝海 (医師会:北松浦医師会 顧問)
木村 幹史 (医師会:北松浦医師会 会長)
押淵 徹 (関係医療機関:国民健康保険平戸市民病院 名誉院長)
犬養 順子 (関係医療機関:医療法人長愛会菊地病院 理事長)
永淵 勝幸 (利用者:松浦市老人連合会 会長)

病 院

萩原 淳 (院長)
野村 晃一 (事務長)
川原 京子 (看護部長)
松岡 弘和 (事務長補佐 経理)
高橋 征史 (事務長補佐 医事)
秋元 雅博 (管理課長補佐 健診)
木須 磨貴子 (総務係長)
平山 隆一 (総務係)

【欠 席】外部委員

土井 庸正 (医師会:佐世保市医師会 副会長)

1. 院長挨拶

(病院) 本日、令和5年度第1回目の地域協議会を開催することになりました。

令和2年11月に松浦市に移転しましたが、前回、前々回とも新型コロナウイルス感染対策のため書面開催をせざるを得ない状況でした。今回初めて対面での協議会が開催でき、委員の皆様のお顔を拝見でき嬉しく思います。

当院が少しでも地域の皆様のお役に立てるように、皆様の貴重なご意見、ご助言をいただき参考にさせていただきながら、より良い運営を行っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員紹介

(病院) ここで改めて委員の方々のご紹介をさせていただきます。

－出席者紹介－

長崎県県北保健所 堀江所長はオンライン参加、佐世保市医師会 土井副会長は欠席です。

3. 協議事項

(1) 松浦中央病院の現況報告について(資料参照)

(病院) 別紙資料(概況書)にて現況説明。

- ・概要、病院沿革、理念
- ・収益の推移・費用の推移(令和元年度～令和4年度)
- ・当期純損益の推移(令和元年度～令和4年度)
- ・入院患者数の推移・外来患者数の推移(令和元年度～令和4年度)
- ・手術件数の推移・救急患者受入れの推移(令和元年度～令和4年度)
- ・人工透析患者数の推移(令和2年度～令和5年6月)
- ・医師の雇用状況(令和元年度～令和4年度)

(病院) 委員の皆様からご意見をいただきたい。

【医師確保】

(関係医療機関) これだけの外来患者の診察を常勤医師だけで賄うのは大変であろうと思う。

健診の診察は誰が行っているのか。

(病院) 基本的に巡回バス健診は非常勤医師、施設内健診の対応は常勤医師で行っている。

(関係医療機関) 公的病院である松浦中央病院への松浦市としての期待は。

(行政) 市民病院が廃院になり、JCHO 松浦中央病院は市役所のみならず、市民が待望する必要不可欠な病院であると認識している。

市としても今後の経営改善に結び付けることができるよう病院の増床に向けて、長崎県を通じて国との交渉をすすめているところである。

(関係医療機関) 当院も同じような立地状況であるが、このような地域での医師の確保は非常に困難である。

松浦市としても市の医療を守るため、病院とタイアップし、医師確保に対し後押しをする姿勢をみせないと県・長崎大学・佐賀大学も積極的に動こうとする機運が起きないのではないかと。平戸市民病院は平戸市の医療を確保するために、様々な手段を使って行政のトップに働きかけを行ってきた。平戸市長は先頭に立って医師確保に奔走してもらっている。

松浦中央病院を無くしては、この地域の医療の柱は維持できない。医師確保については病院の経営陣も松浦市に働きかけているとは思いますが、市としても市民病院を無くした反省を生かして対応していただきたい。

開院以来、市民の救急患者の7割は松浦中央病院で受け入れている。これは大きな成果であ

る。松浦市民2万人の医療費は年間約70億円から80億円であると思われる。松浦中央病院はこの医療費をこの地で消費する大きな産業でもあるので、医師確保に関しては市としても看過できない問題ではないのか。

(病院) 市長には、事あるごとに松浦中央病院の現状を報告し、医師確保に対し協力を求めている。コロナ禍もあり大学訪問も疎かになっていたが、今後は積極的に訪問し医師派遣を求めていく。

【救急患者受入に関する補助金】

(関係医療機関) 松浦市は「救急搬送患者対応補助金」を松浦中央病院へ支給しているのか。

(行政) 今年度から夜間救急への補助金を支給している。

(関係医療機関) 北松中央病院が受入れを断った救急患者を松浦中央病院が受け入れたケースも多いと聞いている。松浦中央病院へは、それに見合った補助金を支給すべきではないかと思うが。

(行政) 松浦市には病院の救急医療の状況を報告する機会が増えており、岡課長が前面に立って佐世保市と協議していただいている。

【外科手術対応】

(関係医療機関) 外科手術を増加させたいとのことであるが、以前、緊急手術症例と思われる患者を紹介したら、対応できないとのことを受入れを断られた。これが数件続くと、このような症例患者を紹介しづらい状況にある。

(病院) 麻酔科医師の常勤確保について努力しているが、ハードルが高く確保は困難である。待機手術はできる範囲で実施可能だが、緊急手術に対する麻酔科医師のセットアップは厳しく、救急手術症例患者の受入れは現時点では難しい。

【職員の雇用状況】

(医師会) 医師の雇用状況は資料にあるが、看護師、介護士、理学療法士等の雇用状況はどうか。

(病院) 看護師は当院にて採用試験を行い、医療技術者は地区での統一採用試験である。

理学療法士等は充足しているが、薬剤師は来年度九州地区で不足する状況であり補充が難しいと聞いている。当院でも、薬剤師はNHOからの退職延長者が今年度配置され、何とか充足している。人員補充に対し地区事務所と連携し様々な対策を行っているところである。

(医師会) 人件費が経営に影響を与えるのではないか。

(病院) 今年度7月末までの給与比率は約67%で、委託費を含めた人件費率は約75%である。人件費率を下げるためには入院収益等の医業収益を増収する必要がある。

常勤医師を確保できず、外部からの招聘医師に頼らざるを得ない状況であり、人件費率を押し上げるひとつの要因となっている。

(医師会) 看護基準に対し看護師の人員は満たしているのか。

(病院) 病棟配置は 10 : 1 であり看護師の人員に余裕はない。夜勤時間もぎりぎりクリアしている。透析部門、外来部門にも配置しており全員で 77 名である。

(医師会) 事務もけっこういるのでは。

(病院) 事務職員は定数に対し 3 名欠員であり、不足人員は非常勤職員で対応している。採用に関して医師・看護師・医療職が優先するので事務職は後回しになる傾向である。職員定数は本部でコントロールされている。

(病院) 職員数は全体的に過剰状況ではない。特に薬剤師、放射線技師は採用希望者が少ない。

(医師会) 増床に関しての採用予定は。

(病院) 理学療法士 1 名、看護師 5 名の予定であるが、看護師については病床稼働状況に合わせて、より効果的な人員配置(増員)を行う。

(医師会) 増床計画では医師の増員が必要か。

(病院) 増床計画シミュレーションを行ったうえで職員を増員するが、医師の増員は必要ない。

(2) 2022 年患者満足度調査について(資料参照)

(病院) 別紙資料にて内容説明。

(行政) 「長寿介護課」の意見は「別紙①」のとおりである。

(病院) 今後も地域住民に貢献したい。何かあれば病院に相談していただきたい。

(関係医療機関) 病院の情報誌は定期的に発行しているのか。

(病院) 発行している。

(関係医療機関) 待ち時間が長いということは病院が頑張っていることにもなる。このような問題を取り上げて市民に理解してもらうことも大切ではないか。

(病院) 待ち時間に対しこれだけの意見があるということは、何らかの対策を講じる必要があると考える。

(関係医療機関) JCHO 全体の情報を収集すれば、効果的な対策があると思うが。

(病院) 医師事務作業補助者を配置した。医師には診療に集中してもらうことで、待ち時間を短縮する取り組みを行っている。

(医師会) 待ち時間については事情を説明すれば患者は納得する。

松浦中央病院での診察をすすめた患者が、昼休み時間帯に来院したことから、受付で「昼休みです。」とのことで診察を断られたそうである。患者は「二度と診察に行かない。」と言って、私としては何とも言いようがなかった。このような緊急を要する症状の強い患者に対する昼休み時間帯の診察は対応すべきであり、体制整備が必要ではないか。

(病院) 待てる症状と判断し、そのような言い方になったのではないか。医師の働き方改革もあり、休み時間の診察強要はできないが、「お時間をいただけますでしょうか。」という声掛けがあれば良かったのではないか。「昼休み」という言い方は適当ではなかった。

(病院) 医師につないで対応する必要があった。昼休み時間帯は当番制を決めて隙間のない診療体制を作る必要がある。そうしないと、たちまち患者の評判を落とすことになる。

(関係医療機関) 診察予約を取る電話受付が午後のみなので、午前中の診察した患者の予約対応は午後にしかできない。一旦自宅に帰っていただいたうえで、予約を取り患者に連絡している。午前にも予約がとれる体制ができないか。

電話録音が毎回聞いていると長い。短縮できないか。

(病院) 電話録音は職員を守るための対策であるが時間短縮を検討したい。

(利用者) 皮膚科診察日が毎週金曜日のみであり、診察まで一週間待たなければならないと聞いている。まずは皮膚科以外の診療科で診察し、皮膚科につなぐような対応ができないのか。

(病院) 皮膚科は専門性もあり、待てる症状であれば皮膚科診察をすすめている。間違った診療のリスクを鑑みての対応だと思われる。

(利用者) 開院当初は対応が悪い話を聞いていたが、最近は対応が良いという話もよく聞く。

特に受付と外来の連携がスムーズであるということも聞いた。悪い意見だけではない。

(行政) 病院ホームページの看護師募集コーナーは若い看護師の声を取り上げてはどうか。今後の増床計画や診療科を増やすことになれば若い看護師の力は必要となる。看護師に対する患者満足度は高い。

(病院) 看護師の平均年齢は 44 歳だが、最近では若い看護師が数多く採用されフレッシュ感がある。ホームページの内容や募集パンフレットを検討する。

(利用者) 市民は市の医療に関心がある。市長が定期的に他の近隣市長と医療問題を話し合い、医師会と連携をとる必要があるのではないか。医師会と連携がとれる市長を望んでいる。

(3) 増床計画について・2025 プランの概要 (資料参照)

(病院) 別紙資料にて内容説明。

(行政) 増床計画の経過は「別紙②」のとおりである。

(医師会) 増床する病床種別は地域包括ケア病床、回復期リハビリ病床どちらを選択するのか。

(病院) 回復期の地域包括ケア病床である。今後医療圏において回復期病床が不足することから、松浦市・長崎県と協議をすすめているところである。

(関係医療機関) 国の政策とする 2025 年プランを参考にし、松浦市の人口から割り出した必要とされる病床は、高度急性期が 26 床だがこれを持つ必要はなく、急性期 90 床、回復期 34 床、慢性期 50 床が必要となる。これらの結果から、回復期病床の増床は非常に合理的である。

松浦中央病院の地域包括ケア病床の増床は地域性に合っており、地域に多いに貢献すると思われる。

(病院) 当院の機能として、高次機能はできない。ポストアキュートとして佐世保市総合医療センター・長崎労災病院からの術後患者の受け入れを行う「サブアキュート」「ポストアキュート」として、後方支援による連携強化を行うことで、紹介患者を受け入れる増床計画とした。

(病院) 有意義な会議ができありがとうございました。

いただきましたご意見を参考にさせていただき、今後益々地域に根差した病院を目指し頑張っていきたい。

(病院) 本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございました。

以上をもちまして閉会させていただきます。